



おむすび通信

Vol.6

理事長あいさつ

フードバンク調布が始動してもうすぐ3年になります。少しずつ着実に地域に支え合いの輪が広がりつつある中コロナ禍に見舞われ、私どもも自粛を余儀なくされましたが、コロナ禍により仕事を失ったり収入が減ったりしてお困りの方からの支援依頼が急増。ますます高まるフードバンクの必要性に応えるべく、感染対策を徹底して活動を続けて参りました。

中でも、休校によって家庭での食事が増えて生活費がかさみ大変困っているとの子育て世帯からの声がとても多く、子育て世帯への緊急食糧支援を実施することを決めました（裏面参照）。

皮肉にもコロナ禍によりフードバンクの活動が広く紹介され、知名度が上がったことで、今までにないほど多くの食品が寄せられています。調布市からは休校により使われなかった給食米、各生協さんからは助成金や食品、地域の企業・団体さんからもたくさんの食品をご寄贈いただきました。10月は食品ロス月間ということもあり、市報でもフードバンク調布の活動を大きく取り上げていただき、様々なかたちでご支援、ご協力をいただいております。たくさんの温かいご支援に心より御礼申し上げます。

コロナ禍で私たちの生活は当たり前のことができなくなり、食事にもその影響が及んでいます。生活に困窮し食糧を必要としている方は確実に増えています。

この緊急事態を乗り越えるためには、行政も企業も市民も社会全体で助け合っていかなければなりません。フードバンク調布も会員一丸となって支援活動を続けて行きます。まだまだ皆様のご支援、ご協力が必要です。一緒に助け合いの輪を広げていきましょう。



理事長 安保 久恵

食品受入・提供実績

【食品受入】 2020年度上半期は5,606kgの食品をご寄付いただき、前年上半期の2倍に迫る量となりました。調布市民の皆様からも、市内外の企業・団体（下記参照）からのご協力も格段に増加しました。
(敬称略・順不同)

NTT、カディスカンパニー、希望の家深大寺、キューピー、けんこう舎、晃華学園、コカ・コーラ、サレジオ修道会、シェアマインド、JA マインズ、JR 東日本、社会福祉事業団そよかぜ、生活クラブ、生長の家、創価学会会員奉仕局、調布市役所、調布市社会福祉協議会、調布むらさきロータリークラブ、東都生協、桐朋学園、フードバンク狛江、フードバンクみたか、三菱ケミカルフーズ、明治、モランボン

【食品提供】 2020年度上半期は5,314kgの食品を生活困窮者の方、福祉施設等に提供致しました。「その他」には裏面に記載のフードパントリーへの提供 363kgが含まれます。上記の団体名および右表の中に「他フードバンク」とあるのは、近隣のフードバンクとの間で余剰分を融通し合っているからです。困窮している方の増加に伴い、各地で新たなフードバンクが設立されています。

提供先	重量 (kg)
生活困窮者	458
子どもプロジェクト	2,795
障がい者施設	391
青少年施設	352
母子施設	174
子ども食堂	247
高齢者施設	244
他フードバンク	244
その他	409
合計	5,314

連絡先

◆事務所・倉庫 070-4447-3054(月・木 10:00~15:00)

e-mail : info@foodbank-chofu.org

facebook : フードバンク調布

ホームページ : <http://foodbank-chofu.org>

フードバンク調布

◆本部 〒182-0035 調布市上石原 1-27-8 カフェ侘助

運営資金の寄付をお願いします！

◆郵便局で振り込む方

記号 00190-3 番号 731122

◆他銀行の口座から振り込む方

《ゆうちょ銀行》店名 ○一九(ぜろいちきゅう)
店番 019 (当)口座番号 0731122

◆どちらも口座名は「フードバンク調布」です

◆手数料がかかります。窓口でお問い合わせください。

活動の記録 (2020. 4~2020. 9)

2020 年春～夏は、コロナ禍によりフードバンクの存在意義が顕在化しました。感染拡大予防の観点からスタッフが集合することがままならないながらも、多くの活動が実施されました。

● 4月、他団体と協力して緊急食料支援を行いました

4月上旬には3月に引き続き「調布子ども食堂ネットワーク」に協力する形でフードパントリー（食料が必要な方は誰でも取りに来られる）を行いました。子ども1人に2食として約100食を用意し、ほぼすべてをお持ち帰りいただくことができました。

しかしコロナの状況は悪化し4月下旬に緊急事態宣言が全国に拡大されると、フードパントリーのように「人が集まる」ことが難しくなりました。そこで、「調布子ども食堂ネットワーク」に協力して「調布子ども宅配プロジェクト」を実施し、6月までに4回、延べ約340世帯に食品を送付しました。



4月4日に行ったフードパントリーの様子。感染予防のためサレジオ修道会コースセンターの玄関先（屋外）にて行いました。

● 6月・8月、宅配による食料支援を行いました



おさまることのないパンデミックの中で収入が減少する家庭が激増しました。昨年から始めた長期休み中の子どもたちへの支援を拡大し、6月にも宅配による支援を行いました。この時には調布市教育委員会学務課のご協力により、各家庭への「安心・安全メール（緊急連絡用のメール）」にて周知して頂き、

200世帯以上の応募がありました。大変心苦しいことでしたが抽選を行い、各10kgの食糧を148世帯へ、8月には157世帯へ送りました。

また、「赤い羽根」の助成金により子どもが1人でも食べられるレトルトのハンバーグなどの食品を購入し、内容を充実させることができました。



箱詰め作業は効率が命。スタッフが綿密に計画を立てたので無駄なく作業を進めることができました。多くの個人の方・企業・団体の方の気持ちが子どもたちに届けられました。

食品をお届けした皆様から数え切れないほどの心あたたまるメールをいただきました。一部をご紹介します。

■今回も沢山送って頂き、ありがとうございました。下の子(5歳)は、お菓子を大事そうに抱え、上の子(14歳)は、お肉大好きなので牛丼をすごく喜んでいました。お米、おかず、お菓子をとてもバランスよく送って下さり本当にありがとうございました。

■昨日食糧が届き本当に嬉しいです。子供のお菓子はしばらく買っていなかったので、とても喜んでました。協力して頂いた市民・企業様に感謝しかありません。ありがとうございました。

■お米からゼリーまでバランス良く品物が入っていて子供達も

大喜びでした。仕事、家事、育児と気の休まることがない毎日ですが皆さんに助けていただいて頑張る力が出て来ました。

■荷物が届き、子供たちもと大喜びで、お菓子はそれぞれ何がいい、と話しながら分けていました。このような支援を知る機会がなかったため、学校を通じて知ることができ嬉しかったです。

■箱を開けてこんなに沢山！とびっくりしたのと同時に涙が出てきました。経済的な不安もありながらパートにも行けず…な不安な毎日でしたがフードバンク様からの真心の品物ですごく心が救われました。自分がこのようにして頂いたことで、この先自分に余裕が出来た時、今度は自分が困っている人の力に少しでもなれたら…と思いました。

当おむすび通信はキリン・地域のちから応援事業助成金を受けて作成しております